

マリアージュなこの1本

ヴァイオリニストの川島成道が
レコード会社のディレクターに連れてきてもらったというお店は
東京の京王井の頭線・神泉駅を出てすぐのところにある
隠れ家のようなワイン専門ピストロだ

連載
VOL.28

川島成道

ヴァイオリニスト

お酒と音楽の美味しいおはなし

店長の佐藤大介さんは川島のファンで、ファンクラブにも入っているという。
この日の取材では彼が気に入ったという赤ワインなどを用意していただいた

Narimichi Kawabata

取材・文 = 伊熊よし子

Text = Yoshiko Ikuma

写真 = ヒダキトモコ

Photo = Tomoko Hidaki

英皇太子主催のシリーズで
フランクを演奏

川島成道は、インタヴューのなかで何度も口にすることがある。

「自分らしい音を探る努力をする」、「自分らしい音楽を切り拓いていく」、「自分らしい表現を求める」。これらのことばは、彼の演奏の本質を意味し、子供のころから変わらぬ目標であり、生涯を通じて探求する面である。

「ロンドンの英国王立音楽院に留学していたときも、さまざま先生から幅広い指導を受けましたが、常に根源にあったのは、自分ならではの音楽表現をすることがいちばん大切だということでした。音楽院では3年学び、その後、日本で演奏会が増えてきたため、ロンドンとの往復をしてさらなる研鑽を積み、トータル13年間ロンドンで過ごしました。その間、アルフレート・ブレンデル、アンドラーシュ・シフをはじめ、数多くの偉大なアーティストのナマの演奏に触れ、オペラやシンフォニーも学生券でたくさん聴くことができ、それらは貴重な財産となっています。」

とりわけ印象に残っているのは、2004年にマリア・ジョアン・ピリス(P)、ハイน์リッヒ・シフ(V)らとともに、チャールズ皇太子(現在の英国王チャールズ3世)主催のリサイタル・シリーズに邦人アーティストとして唯一招かれて演奏したこと。

「フランク『ヴァイオリン・ソナタ』を弾いたことを覚えています。ロンドン時代のことを思い出すと、とてもなつかしいと感じると同時に、もう一度あの地で勉強する機会があったら、もっと異なるアプローチで学ぶことができるだろうなと思ってしまう。」

今月の1本と料理



ニュートン
スカイサイド レッド ブレンド 2018
(アメリカ カリフォルニア)

ブラックチェリー、カシスのアロマと、タイムなどのスパイスの香りを持つフルボディの赤ワイン。なめらかなタンニンがラズベリーとオーク樽のかすかな風味を包み込み、ほどよい酸味と絶妙なバランスを保つ。ぶどうはカベルネ・ソーヴィニオン、メルロー、カベルネ・フラン、プティ・ヴェルド、シラー。

〈協力〉ワイン食堂がと

〒150-0044 東京都渋谷区円山町17-2

TEL:03-3464-5568 <https://gatto-wine.com/>

お酒は20歳になってから

同志で戦友のグアダニーニ
川島成道は常に自分を高め、一日一日、一所懸命に準備して演奏会に備える、その基本的な精神を忘れないようにしている。
「そのためにはパートナーである楽器とよい関係にならなくてはなりません。30年前にひと目ぼれした1770年製のグアダニーニは、とても気難しい面もあり、常に自分が求めている音を出してくれるわけではありません。ときには予想もしなかったようなすばらしい音も生まれますが、いつも細心の注意を払い、工夫を重ね、試行錯誤を繰り返しながら楽器と対峙しています。なにしろベートーヴェンと同じ年に生まれたヴァイオリンですので大切に扱わなくてはなりません」
このグアダニーニはすでに同志であり、戦友でもあるという。

レコード会社の
ディレクターからの紹介
そんな彼がリラックスするとき、仕事仲間や友人と
るような感覚を抱いています」



オーソブッコ

イタリア・ミラノの代表的なシチュー。牛テールと牛すね肉を骨付きで12時間煮込んだ。骨髄から出るスープが味の秘訣だそう。玉ねぎのローストを添えた。玉ねぎは無農薬の三浦野菜。ソースはトマトと玉ねぎがベース。



オードブル盛り合わせ

種々に、鶏レバーのムース、中にひまわりの種を砕いて入れた自家製チーズ、スモークサーモンのムース、パン、トントロを使用したパテ・ド・カンパーニュ、スペインの生ハムのハモンセラノ。

「究極はJ・S・バッハ《無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ&パルティータ》でしょうね。子供のころから弾き続けていますが、弾くたびに新たな発見があり、音楽家としての原点に戻る感覚も抱き、さらに探求して磨き込んでいきたいと思う気持ちがかかります」
昔から筋肉トレーニングも欠かさない。すべてはいい演奏を生み出すための原動力を養うためだ。

Artist Profile

川島成道 (かわばた なりみち)

1971年生まれ、東京都出身。視覚障害を負った幼少期にヴァイオリンと出会い、音楽の勉強を始める。桐朋学園大学卒業後、英国王立音楽院へ留学。1997年、同院を同院史上2人目となるスペシャル・アーティスト・ステイタスの称号を授与され首席卒業。1998年、東京サントリーホールにおいて小林研一郎指揮、日本フィルハーモニー交響楽団との共演でデビュー。その後、英国と日本を拠点にソリストとして精力的な活動を展開し、毎年数多くのリサイタルと国内外の主要オーケストラと多数共演を行っている。2017年、文部科学省の「スペシャルサポート大使」に就任。

■公演情報

川島成道ニューイヤーコンサート2023

〈日時〉2023年1月28日13時30分

〈会場〉浜離宮朝日ホール

〈共演〉寺嶋隆也 (p)

〈曲目〉R. シュトラウス「ヴァイオリン・ソナタ」、

ポンセ(ハイフェッツ編)《エストレリタ》、サラ

サーテ《バスク奇想曲》、他

〈問合せ〉株式会社テンポプリモ 03-3524-1221

